

令和元年度 第1回総合教育会議会議録

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和2年2月5日午後3時00分
閉 会	令和2年2月5日午後3時50分

会議に出席した者の職及び氏名

出席者	市 教 育 長 阪 口 伸 六 教 育 委 員 長 : 木 寄 茂 巳 委 員 員 : 西 中 隆 委 員 員 : 佐 野 慶 子 委 員 員 : 西 村 陽 子 委 員 員 : 吉 村 文 一
教育委員会 事務局職員	教 育 部 長 : 細 越 浩 嗣 教 育 部 次 長 : 上 田 豊 明 こ だ も 未 来 室 長 : 神 志 那 隆 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 社 会 教 育 課 長 兼 公 民 館 長 : 佐 藤 信 雄 学 校 教 育 課 長 : 松 田 訓 一 こ だ も 家 庭 課 長 : 家 村 美 雪 子 育 て 支 援 課 長 : 小 林 弘 典 教 育 総 務 課 長 代 理 : 石 橋 祐 之 教 育 総 務 課 係 長 : 前 川 恭 徳 教 育 総 務 課 : 林 陽 子
市長部局職員	政 策 推 進 部 理 事 : 藤 村 達 也 総 合 政 策 課 長 : 亀 山 政 記

議題及び協議事項の要旨

- ・ 協議事項（1） 生徒一人に一台のタブレットを。タブレットを活かした学校 ICT環境の整備について

教育総務課長	<p>「生徒一人に一台のタブレットを。タブレットを活かした学校 ICT環境の整備について」に関して、施設及び機器の整備について説明する。</p> <p>これまで本市教育委員会としては、平成22年に国のスクール・ニューディールに合わせて、学校耐震化100%達成に取り組んだ際に、小中学校において、電子黒板や校内LANの整備、パソコン教室の充実に取り組み、その後、平成27年にタブレットの導入、Wi-Fiの整備に取り組んだ。これは、大阪府下では先進的な取組であったが、およそ生徒8名にタブレット1台という状況であった。このたび、国・文科省の新経済対策の一環としてGIGAスクール構想が実施されることにより、本市もこの構想に合わせ、児童生徒1人1台のタブレットの配備に向けて進めていきたい。</p> <p>そして、その活用に向けた環境づくりのため、まずは無線LANのさらなる増強が必要であることから、令和元年度補正予算にて、小中学校全ての普通教室に無線LAN回線の増強工事から実施したいと考えてい</p>
--------	---

	<p>る。また現在、文科省のG I G Aスクールの実施要項などが整備中であり、市としてもその間に、タブレットにおいて活用するソフトウェア等を検討し、令和2年度後半より、文科省のロードマップに合わせてタブレットを年次計画的に配備していきたい。</p> <p>費用については、ネットワーク整備、タブレット整備を全て実施するため、令和2年度から令和5年度にかけて総額10億円強の予算が必要と見込んでいる。</p> <p>国庫補助の対象は、ネットワーク整備が補助率2分の1、タブレット整備は1台4万5,000円となっている。ただし、本庁に設置されているサーバの更新費用や、タブレットの4万5,000円を超える部分やソフトウェアなどは補助対象外経費であり、10億円強の経費に対し国庫補助は1億8,000万円程度、起債は6億5,000万円程度と見込まれ、整備を行う令和2年から令和5年にかけて市の一般財源が1億7,000万円程度必要となる試算である。もちろん起債については後年度、市の一般財源で償還していかなければならないものである。</p>
西村委員	<p>現時点でもW i - F iがあると思うが、容量や機能が足りないということなのか。</p>
教育総務課長	<p>これまで、タブレットを活用した授業は、およそ2人に1台程度で、学年ごとやクラスごとに調整しながら使用した。W i - F iについては標準スピードの回線で使用できたが、生徒1人に、また各教室同時に使用するとすると高速スピード回線のW i - F i整備が必要となる。</p> <p>先日可決した国の補正予算で、このG I G Aクラスの高速スピード回線のW i - F iの整備に交付金が充当できるので、この機会にタブレットに先行して整備を行いたいと考えている。</p>
西村委員	<p>皆で使うとたくさんの容量が要る。それを整備するにはかなりの財政負担があると聞いた。</p> <p>今後、市のほうでも格段のご配慮を頂きたい。</p>
阪口市長	<p>令和元年度の補正予算は国のほうでも大型補正予算が先日可決され、当然市もそれに合わせて、大きな事業ではあるが、予算措置等を行いたいと考えている。</p>
木寄教育長	<p>今回のG I G Aスクール構想と、新しく始まる新学習指導要領、これらの実施に合わせて令和2年度以降、おおむね4年間にわたって学校現場が大きく変化する年になるので、先ほど説明があった施設、備品の整備、それから一番大事なのは教員の研修。それから専門家の指導などの教育体制を充実させ、ハード・ソフトの両面から学校教育の充実を図っていききたい。</p> <p>市長においても引き続きご支援をよろしくお願ひしたい。</p>
阪口市長	<p>W i - F iを整備するだけで済むわけではない。その後も、毎年度予算を確保し、タブレットを年次的に入れていこうと考えている。</p> <p>文科省における久しぶりに大きなプロジェクトである。このような国の補助制度のチャンスを逃すことになると、ほかの都市に大きく後れを取ることが予想される。予算獲得に向けて私も市長会として率先して取り組んできた立場から、今回のG I G Aスクール構想を生かして、子供たちの教育環境や学力をよりよく向上させていただきたいと教育委員会にはお願ひしたい。教育委員会の取組に対し特に異存はない。</p> <p>一方、苦しい財政状況であることは事実であり、何とか市の独自財源を確保する方策を編み出しながら、最大限、積極的に支援したい。</p>
吉村委員	<p>色々なI C Tを入れると保守の面が非常に大変になってくる。市もI C T化をしているので、S Eや技術者の方々の協力も得て、教育部も市のほうもトラブル時のバックアップについて、しっかりと議論していた</p>

	<p>だきたい。（トラブル時の対処方法には、クラウドを市のサーバに置くのか、また業者に置くのか。業者がメンテナンスしてくれるのか、市の技術者にメンテナンスしてもらおうのか。もし、そういうトラブルがあったときには、従来の授業にさっと切り替えられるように学校現場でも用意をしっかりとしておく等。）</p>
学校教育課長	<p>トラブル対応も、子供たちが常時安全にスムーズに使わなければ学力の向上も果たせないなので、そのような面に関しても様々な対応を講じていきたい。</p> <p>現在、市のほうで1名ICT支援員がいるので、そういった方の増強についても今後、検討していきたい。</p>
阪口市長	<p>ハード・ソフトの両面。また、吉村委員が言うようなバックアップ体制が必要。それらが補助対象外というところもあるので、頭の痛いところであるが、それだけに財源の確保をしていかないといけない。最大限努力していきたい。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>

・協議事項（2） 安全で安心な公共施設の整備の方向性について

教育総務課長	<p>事務局において、将来にわたり安全・安心かつ持続可能な公共施設の在り方を推進するため、教育委員会が管理する羽衣小学校プール、旧羽衣幼稚園、旧北幼稚園及び旧高陽幼稚園の現状と課題について説明する。</p> <p>羽衣小プールは昭和38年建設であり、老朽が著しく、平成30年度からプールは使用できない状況になっている。</p> <p>平成30、31年度の水泳指導は、緊急的措置として東羽衣小学校プールを利用し実施。また、修理経費など維持のための大きな経費負担が課題となっていた。</p> <p>次に、公立幼稚園は、これまで園児数の減少を受けて適正規模・適正配置の観点から順次再編統合し、平成31年度からは加茂幼稚園1園に再編を行っており、羽衣幼稚園は平成25年度末で廃園となり、今後維持管理する役割を終えている。</p> <p>在、このプールと旧羽衣幼稚園は教育目的としての取扱いとなっているが、市長部局へお返ししたい。</p>
学校教育課長	<p>羽衣小学校の水泳指導については、羽衣小学校プールの使用が不可能な状態となったため、羽衣小学校の水泳指導の業務委託を検討している。</p> <p>その背景としては、指導において、他の教員の支援が多数必要となる授業であるため、それが不要となることにより、応援する教員が本来業務に専念でき、働き方改革等に寄与する物と考えている。また、東羽衣小学校は本市の小学校の中でも児童数が多く、他の学校よりも利用する児童数が多い。東羽衣小学校、羽衣小学校の両校が1つのプールを使用するのはなかなかきびしく、業務委託で他のプールを使用することにより余裕のあるカリキュラムを編成することが可能になる。</p>
佐野委員	<p>小学校、中学校の水泳指導は、全国的にも業務委託を検討している自治体が増え、近隣では貝塚市が令和2年度から予定していると聞いた。</p> <p>子供の放課後課後習いに行っているのを羨ましく見ていたが、自分たちもそういう場所に行けることで、実施を非常に喜んでいるという</p>

	<p>情報も聞いている。</p> <p>羽衣小学校でまず実施ということになれば、この1年は、児童の利用時のアンケート、先生方のご意見、また保護者の意見等をしっかり聞いていただきたい。何よりも教職員の働き方改革に寄与できるよう検証していただければと考えている。</p>
阪口市長	<p>公共施設の中で温水プールが市内に1か所あり、活用していけるとするのは非常にメリットである。教育委員会に今の考え方をできるだけ早急に詰めていただき、我々としてもそれに合わせて対応できるよう、早急に検討していきたい。</p>
西中委員	<p>「生徒一人に一台のタブレットを。タブレットを活かした学校ICT環境の整備について」ということで、文科省がかなり今後の教育の柱に位置づけてGIGAスクールのような構想を打ち出している。本市も、かなり力を入れているが、総額10億円ほどかかるので、私は半分ぐらい国の補助金が出るのではないかと考えていた。</p> <p>しかし、1億8,000万円程度、あと残りは全部地方自治体で予算を確保するとなると大変ではないかと思う。</p> <p>起債が6億5,000万円、市の一般財源が1億7,000万円、起債は借金であるので返金をしなくてはならない。そういうことを考えても、羽衣小学校のプールや旧羽衣幼稚園の園舎等を市に返し売却して、教育の財源に充てる。跡地については、地域からも色々意見が出ていることは承知しているが、こういう形で教育の財源に充てることになれば、飛躍的に子供たちの教育環境が向上するので、市民の理解も得られるのではないかと。回答は知らないが、ご検討を頂けたらと思う。</p>
子育て支援課長	<p>北幼稚園の有効活用について説明。</p> <p>旧北幼稚園については、公立幼稚園の統廃合に伴い平成31年3月末に閉園し、施設の有効活用については、これまで慎重に検討してきた。</p> <p>児童発達支援センター松の実園は南海トラフ地震の津波浸水想定区域内にあり、施設の老朽化が進み、これまでも多くの修繕が必要であった。現在、保健センターで行っているバンビグループについても、これを機に津波浸水想定区域外の高台に移転する必要があるため、浸水想定区域外に位置する旧北幼稚園への移設を検討している。</p>
吉村委員	<p>松の実園に通っている子供の多くは精神発達障害で、パニックに弱い。自分の予定以外のところに入ればすぐパニックになってしまう。そういう中で津波や地震のとき、急に避難しろといってもなかなか難しいのではないかとずっと考えていた。</p> <p>鴨公園が避難所になっており、津波から逃げる距離が、少しでも近いほうがよい。子供たちを説得するには結構な時間がかかるということを考えれば、少しでも内陸部で子供たちを落ち着かせる時間が保てる場所がいい。旧高陽幼稚園にも津波避難タワーはあるが、登るにも非常に怖がる子もいるので、実質的には可能な限り海から離れたところへ移転し、安全に子供たちを療育するのが非常に大切だと考える。バンビも今、保健センターでやっているが海沿いであるので、両方とも北幼稚園に移転するのは安全という面ではいいことである。ただ、北幼稚園は普通の幼稚園なので、バリアフリー化とか施設面で考慮する点も必要である。費用面ではどれぐらいかかるのか。</p>
子育て支援課長	<p>あくまで現時点での概算であるが、1億5,000万円程度の費用が必要と考えている。</p>
西中委員	<p>旧北幼稚園の利用については、いろいろ地域の方から意見が出てい</p>

	<p>る。松の実園の旧北幼稚園への移転は非常にいいと思う。</p> <p>教育の一つの施設として、津波浸水予定区域内から区域外に移転することは、子供たちの安全ということで地域の理解も得られるのではないか。先ほど10億円の話があったが、加えてこれは、1億5,000万円。それだけの経費がかかる。国からは助成金はもらえるのか。</p>
子育て支援課長	<p>現時点で国の補助制度はないが、今後も国の補助制度の動向等を調査し、市の財政負担軽減に努めていきたい。</p>
佐野委員	<p>松の実園・バンビグループは発達に支援を要する子供たちを保育するという意味でとても大切な施設である。他市に類を見ない高石市の本当にいい施策の一つである。そういう意味でも、子供たちにとって安全で安心な施設となるように、給食棟の設置や保育室も必要となる。吉村委員が話したバリアフリー化等の特段の配慮もお願いしたい。</p>
吉村委員	<p>先ほど西中委員が旧羽衣幼稚園の跡地と羽衣小学校プールの売却益を有効利用したらという話があった。松の実園の跡地についても、今後は海沿いに公共施設、教育施設を造るというのはあまり現実的ではないので、市の有益になるような利用方法を考えていただきたい。売却も一つの方法ではないか。</p>
阪口市長	<p>いろいろご意見を賜り、それぞれ課題はあるが市長部局のほうで検討し、進めてまいりたい。</p>
こども未来室長	<p>旧高陽幼稚園について、園児数の減少により、平成30年度末で廃園。今年度からは加茂幼稚園1園に再編・集約しており、現在廃園となっている。</p> <p>旧高陽幼稚園については、平成25年に既に耐震補強を行っているので、今後、待機児童の解消や育児相談など、将来に向けた多様な子育てニーズ等に対応できる環境整備が可能とするため、引き続き教育委員会で維持管理を行っていきたい。</p>
学校教育課長	<p>教育研究センターは、現在まで耐震診断が未実施で、施設の老朽化が進んでいることを踏まえて、今回の安全で安心な公共施設の整備の方向性についての持続可能な施設の考え方に沿い、耐震診断をお願いしたい。</p>
社会教育課長兼公民館長	<p>千代田公民館についても、教育研究センター同様、未耐震となっているので、この機会に併せて耐震診断をお願いしたい。</p>
阪口市長	<p>千代田公民館、そして教育研究センターの耐震診断について、診断をした後は改修費用がかかるということが考えられるので、そういうことも含め教育委員会で議論頂きたい。</p>
西村委員	<p>協議事項に上がっていないが、もともと総合教育会議の重要な目的として、いじめの問題に早急に対処するという機能がある。現在のいじめの発生状況、あるいは対応の状況について確認をさせていただきたい。</p>
学校教育課長	<p>いじめについては、各校において正確な認知と適切な早期対応を進めている。認知基準の見直しにより、平成28年度は小中合わせて69件と、前年度27年度から大幅に認知件数が増えたが、29年度は50件、30年度は44件と減少している。なお、本年度は12月末時点で40件であり、前年度の同時期と比べて少しだけ増加している。</p> <p>また、認知した事案においては30年度末時点において全て解決済みであり、重大事案にまでなっているケースはない。いじめの取組と現状については、いじめ防止対策推進委員会を毎年度2回ずつ開催し、</p>

	その場で頂いた助言を基に対策等について改善しているところである。なお、本年度の第2回目は3月6日に開催する予定である。
西村委員	認知基準見直しをして、軽微なものも上げるようになり一旦増加したが、その基準を維持しても徐々に減少しているので良くなってきている。
学校教育課長	認知基準を見直したときに様々な事例等を示し、そのとき、さらに細かく見ていく形で一斉に学校に対して指導し、教員研修等も行った。その結果、28年度は大幅に前年度より増えたが、それ以降、ケースのほうは徐々に減少傾向である。これについては、また喉元過ぎればではあるが、そういったことが起こらないように、学校に対する指導や教職員に対する研修等、しっかりと行っていきたい。
西村委員	慢心しないで引き続きよろしくお願ひしたい。
阪口市長	教育委員会だけではなく市長部局も、様々なアンテナを張り巡らすのが大事である。育児相談や一時預かりも含めて、頑張って対応してきたが、ニーズが高い。孤立しているお母さん、お父さん方にもしっかりアプローチをしていきたい。学校現場だけに文句を言うのではなく、いろんなチャンネルで取り組む。また何か必要なことがあれば、協力体制は市も含めていつでも取り組む。
西中委員	いじめ問題の感想だが、小中学校の先生方の取組はもとより、子供たちが児童会や生徒会で非常によく取り組んでいると高く評価したい。ぜひ、そういう取組を今後も継続し子供たち主体で、いじめ問題を解決するということが一番大事だと考える。
阪口市長	少年野球等学校だけではなく、スポーツの関係で生涯学習や、社会教育で頑張って色々なことを取り組んでほしい。
吉村委員	この際、お願ひしたい。 今、高石信太線の都市計画道路の検討委員会に入っているが、北中央線、北線とか中央線で、特に南海中央線でドラッグストアの前に信号がつかないので、通学路が少し遠回りになり、なかなか解決しなかった。 南線の検討委員会でも、安全な歩道という意見は出るが、通学路という意見があまり出ない。道が広くなり、30キロ、40キロと車が速く、3トン規制が無くなるのではないかと、通学路としてはあまりよくないような道ができる印象を非常に持っている。土木部と教育現場も連携し、最初から通学路に供する横断歩道であるとか、後になってなかなか信号がつかない等。その辺は早めから警察とも協力して整備していただきたい。都市計画の話であるが、それに伴って安全な通学路の確保というところを考えていただきたい。
阪口市長	来年5月に南海の連続立体交差事業の、難波方面行き本線の高架化が完了するので、その踏切は解消され、その後、高師浜線の工事に入る。一部まだ踏切が残るところがあるが、ほとんど解消される。交通安全対策は生徒数のターニングポイントと思っている。例えば北村とか伽羅橋筋の1本手前の北線。あそこもずっと加茂小のところまで抜けている。また新村北線は、大きな道路が東西行け行けになっている。そういった面でかなり交通の緩和がされてくると考える。 ただ、子供の安全面でいうと、連立とプラス道路ネットワークづくり、委員のご指摘の安全な道路づくりというのは大事であるので、土木部に指示したい。例の南海中央線についても、一生懸命事業を進めている。いずれにしても、羽衣学園の最後のところまで事業認可を取ったが、幼保小中高の子どもの通学路的にはいろんな危険な場所がないとも限らないので、いろいろな事業を進めていくのに集中的にやっ

	<p>ていく等、警察とも協議して、今できる対策をどんどん考えていき、それらを日々指示し、また留意していきたい。</p> <p>当然、教育委員会にも議会からいろいろ校区の関係はどうするのかというご意見が出ているので、連立完成後のまちづくり、あるいは体制等大きな問題である。学校というのは単に子供の教育の場所だけではなく、災害時の避難所でもあるので、既にこれは先行して設計をやっている。お金が要るが、中学校の体育館もクーラーを設置する作業をやっている。要するに、学校というのは地域の拠点になっているので、そういう意味での校区の在り方等も十分に検討していただきたい。これは私から教育委員にご要望申し上げる。</p>
西村委員	<p>今、マスコミでも連日、新型コロナウイルスの報道がされているが、高石市の特に教育委員会所管の施設では何か対応なり対策を取っているのか。</p>
教育部次長	<p>教育委員会が所管している施設については、事前に備えていたアルコール消毒液を配布の上、現在配置を完了している。それから、小中学校の各校に1,000枚、合計1万枚のマスクを配布し対策を施している。</p>
木寄教育長	<p>今日、総合教育会議で協議事項の案件として2件、意見交換をさせていただいた。教育委員からも色々な意見を頂戴したところである。私としては、それらを踏まえ、総合教育会議終了後、教育委員会の臨時会を開催し、その中でもしっかりと議論を深め中身に入っていきたい。委員の先生方には引き続きよろしくお願い申し上げたい。</p>
阪口市長	<p>本当にご多忙な委員各位に時間を取っていただき恐縮である。この後の会議もできるだけスムーズな進行をするように、事務局にお願いしたい。</p> <p>本日、ご議論を頂いた生徒1人に1台タブレットは、学校ICT教育環境の充実ということである。予算要望の点で、市長会の会長もしており、私も非常に思い入れがある。自民党、公明党も含めた与党議連で要望活動を行い、麻生財務大臣に2回、幹事長のところへ直に要望に行き私も発言をした。</p> <p>今度また、全国で動きがあるわけだが、うちもこれを何とか持っていきたい。もう一つ。当時の学校耐震化で来てくれた文科省の職員が、今この担当をやっている。この2月17日に大阪府33の市町が全部集まる市長会（その後、町村長会もある）があり、そこに担当の課長と一緒に来てくれていた。何か深いご縁のようなものを感じている。</p> <p>学校ICT、タブレットだけではなく、松の実園の改修に1億5,000万円、国費がどれだけ取れるか分からない。あと、教育研究センター、千代田公民館も診断だけではなく耐震工事となると、これも国費がつくというのはなかなか厳しい。今やっている中学校体育館の空調も市の独自財源である。そういう面では非常に財源が厳しい。そんなことをご勘案頂き、教育委員会から売却できるところは売却し市の財源に充てたらどうかと、非常にありがたい言葉をいただき感謝したい。</p> <p>当然、これまで教育施設や福祉の部分に使ってきたものについては、また形を変えて財源を充てられるように進めていきたい。それらも含めて皆様方の今後のご意見を踏まえながら、進めていきたい。</p> <p>本日は、まさに高石市政の1ページに残るような総合教育会議であったのではないかと。さらに、高石市の子育て支援、学校教育環境、高い、高い、レベルを維持して魅力のある今まで以上に若い方々が高石市に住みたいまちを目指して頑張っていきたい。今後とも温かいご理</p>

	解、ご支援、ご協力、引き続き賜らんことを心からお願い申し上げて、私の御礼と感謝の挨拶とする。
教育部長	ありがとうございました。 以上をもって、令和元年度の第1回高石市総合教育会議は閉会とする。